

トピックス

2018年1月17日付の読売新聞「わいず倶楽部 元気印」コーナーで、ドラムス担当の東谷さんが紹介されました。

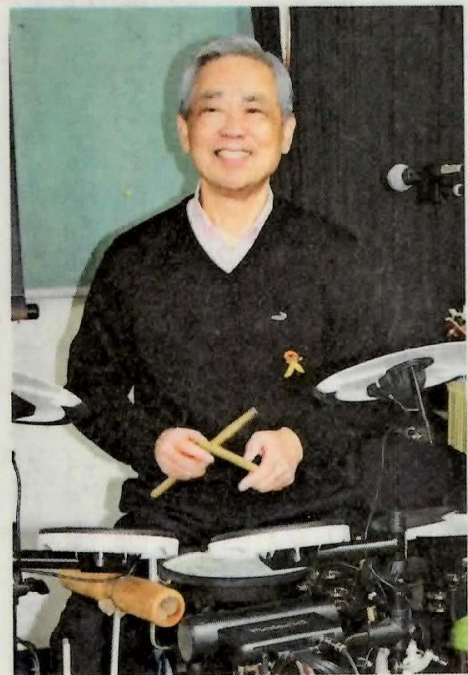
わいず倶楽部



「ミュージックセラピー・オンタイム」というバンドでドラムスを担当し、県内の高齢者施設やコミュニティセンターで演奏しています。団塊の世代に懐かしい昭和の歌謡曲、フォークソングや演歌、唱歌を皆さんと一緒に歌っています。

高校の吹奏楽部や会社の軽音楽サークルで打楽器やドラムを演奏していました。66歳で会社勤めを終え、どうしようかと考えていた時、かつての仲間を誘

東谷 明彦さん 72
(滋賀県近江八幡市)



観客の「また来てね」励み

われてバンド活動に参加しました。会場設営や運営などのスタッフを含め、50〜70歳代の仲間計17人で、年間80回ほど演奏会を開いています。

日本の高度成長期を支えた人たちが、仕事に打ち込んでいた時代の曲を口ずさみ、笑顔になったり、涙を流したり。握手でお別れし

ますが、「良かった」「また来てね」と言ってくれらる、こちらも元気づけられます。そんな出会いに毎回感謝しています。

演奏会の参加費から、児童虐待防止の「オレンジリボン運動」に寄付し、東日本大震災の被災地に義援金を送っています。その活動も続けていきたいです。

「わいず倶楽部事務局」〒530・8551 読売新聞大阪本社
電話06・6366・2338 (土日祝除く10:00~17:00)
ファクス06・6366・2346 Eメールeditor@ysclub.jp

*「わいず倶楽部」次回は1月31日に掲載予定です。